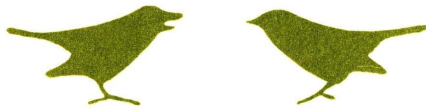


幼 兒 教 育 研 究 雜 誌

母 子 と 女 媼



第 九 卷 第 二 十 號

目 次

- 明治四十二年を送る。 寺田勇吉
- 家庭と學校 和田實
- 遊戯的手工の積方に就いて 和 田 實
- 幼稚園の保育を終りたるものと家庭より直
に入學したるものとの小學校に於ける成績
の比較 笹野豐美
- 育兒實驗談 光藤泰次郎
- 個人主義の弊 鹽野奇零
- 子供の健康を圖ること 光藤夫人
- 産時の思ひ出 某 女 史
- 醫師の選擇に就きて 母 親
- 小兒消化不良症の話 内海 靜 一
- お伽 訓話 櫻折れ雀
- お伽 訓話 數件 とよ子

フ レ ー ベ ル 會 行 發

會告

來る十一日午後一時半より
 東京女子高等師範學校附屬
 幼稚園に於て本會五五回常
 會相開き候間御繰合御出席
 下され度此段御案内申上候
 也

明治四十二年十二月

フレールベル會

本會役員

會長 主幹 庶務幹事 會計幹事 庶務幹事 會計幹事 庶務幹事 會計幹事 編輯主任

高嶺秀夫 池田定夫 小田村トク 大關トク 和井綱利 武井綱利 藤田綱利 福田綱利 雨田綱利 下田綱利

質問規定

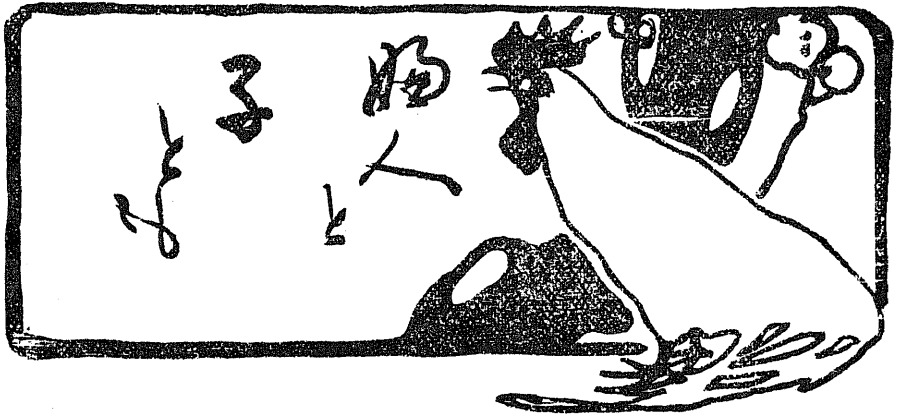
本會は讀者の種々なる質問に應じます婦人と子供と家庭とに關する事なら何でもお尋ねなさい。往復はがきか又は返信料封入ならば早速に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

入會又ハ購讀手續

(振替口座東京 一七二六六番)

本會に御入會なさうとする方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ年分をまとめて振替貯金へ御拂込下されば直に登録して雜誌を發送致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は此の割合の前金で本會か又は賣捌書店へ御便宜御申下さい

- ◎一冊郵税共金拾一錢
- ◎六冊前金郵税共六拾錢
- ◎拾二冊同金壹圓貳拾錢
- ◎郵券代用一割増



第九卷第二十號

【※】

明治四十二年を送る

鳥兔うと匆々きうきう、歲月さいげつは人ひとを俟たたずして、茲こゝに、明
 治ち四十二年しにじゅうにねんは暮くれんとす。願かへりみれば俗事ぞくじ
 徒いたづらに忙せわしうして事こと凡すべて志こころざしに違たがひぬ。慚ざん愧き！
 慚ざん愧き！

來こん年としこそはと勢いきほひ込みし今年こゝねんも早はや二
 旬じゆんの後のちには後あともなく消きえんとす。歲さい晚ばんに
 於おける會くわい員いん讀どく者しゃ諸しよ君くんの感かん想さう、果はたして如いか何か
 若もし、夫それ、吾こ人じんと悔くわいを同おなじせらるゝなく
 んば幸さい也ひなり。過すぎたるは詮せんなし。いでや、滿まん身しん
 の勇ゆう氣きを振ふひ起たして迎むかへ年の用もち意いせん哉かな。

家庭と學校 (一)

精華學校長 寺田勇吉

家庭教育は人間生活の根柢なり一村一郷延いては國家に於ける人間生活も皆此の根柢より滋養液を吸收する幹枝葉に外ならずといひ又家庭教育は學校教育によりて裨補せらるゝも之により又は其の他によりて代理せらるべきものにあらずといひ家庭教育の主任者たる母は親愛と教導とを結合して兒童を教育し何人と雖も母に代理し得るものなしといふが如きは皆泰西大教育家の唱破する所にして、家庭教育の兒童に大切なる所以を切言するものといふべく隨ひて兒童が學校に就學するに於いては家庭と學校とが共同一致するにあらざれば學校教育の効果を奏すること能はざるは實に明白なる事といふべし是を以て我精華學校が兒童をして必ず家庭より通學せしむるを以て本體とし獨り本校が兒童の爲に寄宿舎を設ざるのみならず尙ほ他の寄宿舎より通學するをも好まざる所以なり然り

而して一組の兒童數を四十人以下とする所以も亦各兒童の個性に基き其の長を助け短を補ふ爲めのみならず各異の家庭に於ける事情にも成るべく適應せる教育を施さんと欲するにあり然りと雖も固より非教育的なる家庭事情には適應するを欲せざるのみならず若し斯かる事情あるに於いては兒童教育の爲め家庭自ら此の事情を排除せられんことを要求して止まざるなり。

然るに、世には兒童の教育を専ら學校に依頼し、依て以て兒童の圓滿なる品性の發達を期し、或は惡習の矯正を望むものなきにしもあらざれども、斯の如きは木に椽を求め百年河清を俟つの類なりと謂ふべし。

兒童の品性陶冶に關する實行の方面は主として家庭の力に依らざるべからずされば世の父母たるものは先づ其家庭を改善して秩序あり規律あるものたらしめ苟くも非教育的なる事物をして兒童の耳目に觸れしめず而して家庭の改善振肅は所謂賢母良妻を得て之に兒童教育の全權を委ぬるにあり。是を以て本校規則中には家庭心得なるものを掲げ

しが尙家庭に對して要求すべき事項の數者を述べんとす。

一、家庭は兒童教育の爲め直接間接を問はず其の教育に有害なる事情は之を排除せられんことを望む例へば不法律なる家庭状態は兒童教育の爲め之を改むることの如きは是れなり。

二、兒童體育の爲め家庭に於ける飲食物飲食時間に注意すべきのみならず通學の際は雨雪其他止むを得ざる故障のある外は必ず徒歩せしめ且つ通學に着用する衣服の如きも此の心得を以て品質及び裁縫に注意し携帶品は男兒に在りては背囊に入るゝを最も可なりとす。

三、學校用品の整理衣服及び靴の着脱及び其の始末の如きは必ず兒童をして自ら處辨せしむるを要す。

四、父母兄弟は兒童を扱ふに際し決して虚言を弄して一時を糊塗する事なく又兒童の我意に出でたる言行はあくまで之を排斥し以て兒童の虚言及び我儘の萌芽を豫防するを要す。

五、兒童の見聞する所に於いて父母兄弟互に其の

威信を害するの嫌ある言行をさくるを要す父母兄弟各々特有すべき威信なき時は家庭教育は擧らざるものなり。

六、無害有益なる兒童の讀物は之を讀ましむる固より妨なしと雖も近來此の類の書類續々出版せられ爲めに購ふに暇あらざるの觀あり故に兒童をして之に耽らしめざるの注意必要なり殊に此等娛樂用の書を讀む際には兒童は往々姿勢を亂し又視力を害するの虞ありこれ家庭に於て注意警戒するを要す。

七、家庭教師を聘用するに當りては其の人物を選擇すること最も必要なり教育的素養なくして高等なる學科の知識のみ有するものは兒童の心性發達を害することあるも益なきこと殆ど常なり且つ夫れ教育的素養あるものと雖も往々兒童の不爲と知りつゝ父母の満足を得せんとして復習以上の教授を爲し新事實を教ふる等學校教育の妨害をなすこと屢々なり況んや復習と雖も小學校兒童には殆ど其の必要なし若し其の要あれば本校に於て之をなすべきをや。

八、家庭教育の選擇のみならず婢僕の選擇も亦兒童教育上極めて必要な家庭の事情によりては兒童は父母の感化よりも婢僕の影響を受くること大なるものありこれ大に注意せざるべからず。

九、多數の兒童ある家庭に於ては往々父母の之に愛を頒つこと不公平なるありて爲に兒童相互間の不和を起し甚しきは一家大破綻の原因となることとありこれ亦大に注意すべき事なり。

十、父母殊に母は成るべく屢々學校を參觀して教員と兒童の訓育に就き懇談せんことを要す。

遊戲的積方に就て

和田實

積方と云ふのは、木片や石片を積み重ねて種々な形態を構造するのが主なる遊であるが、反對に積んだものを一つ一つ丁寧に下すこともある。最も面白き遊であるが小さな子供には興味がない。最も普通に行はれて居るのは單に積み重ねて造るこ

とである。積方の中最も普通なるは木片の積方即ち積木である。而して此積木には普通玩具店にあるものと從來幼稚園で用ゐて居るフレール式のものと二種がある。坊間に賣られて居るものは木片が細く且特種の圓柱や特種の飾形などがあつて初歩の子供には餘り適當したものではない。が少し大きい子供には或は家或は軍艦などを積むことが出来るので夫れく多少の興味があるものである。併し是等の積木は何れも木片の形に特種のものがあるので應用の範圍は自然狭小なるを免れない。是に就いて一番よく出來て居るのは矢張りフレール式の積木である。併し氏の積木が形態の種類を六種に限り且全體を必ず一個體にまとめ様としたのは少し牽強の嫌がある。且又積木の種類を分けて第一積木より第四積木に至る四種とし何れも形態と其數を限つたのは窮屈な感を免れない。東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於ては多少之を改良して四種を減じて三種とし其形態の種類と其數とを幼兒の年齢に適當なる様組み合せて左の三組として居る。

		第一	第二	第三	
正方形	四	四	四	四	
長方體	四	四	四	四	
方體	四	四	四	四	
大三角柱	四	四	四	四	
小三角柱	四	四	四	四	
四角柱	八			四	

一般に我國の幼稚園では此改良の組を使用しては居るが外國人設立の幼稚園では依然プレーベル式のものを使用して居るところが多い、殊に甚だしき頑固な外國人關係の幼稚園などでは木片の大さ迄も吋尺に因つたものでなければならぬと云ふて居るのさへある。頑固も是程になると寧ろ滑稽であるが兎に角從來の幼稚園ではプレーベルの定めた六種の形態を數個組合せて一定の箱に收め常に之のみを以て積方の材料として居るのである。是は寔に變通の便、融通の利を失つたもので行動の頗る自由な幼児に採つては極めて不自然なものとして云はねばならぬ。之を實際の狀況に徴するに何處の幼稚園でも遊園や砂場に用ゆる積方の材料として別種のものを用意せざるを得ない様な趨

勢になつて來て居るし、家庭に於ては幼稚園用以外の積木即ち坊間に販賣せられて居るものを持つて居ると云ふ風で、形と數とを限ると云ふことの合理的でないことが知れる。之を要するに積方の材料としては木片、石片、瓦片等種々なるものに差支なく其形態亦一定するの必要はなきものである。唯幼児に何が最も興へ易きかと云は、木片最も便利なる可く、木片を造るとせば如何なる形態が最も幼児に好まるゝかと云ふ點に於て多少の限定を生ずるものである。併し幼児の性質としては決して是等の事情に係らず、機に應じて種々なる材料を要求するものである。其數に於ては殊に終止一定するの非理なることを主張せねばならぬ。幼児の構造するや始めは簡易にして漸次複雑を増すのである。積木の數は是に應じて進歩せねばならぬ。之を終止一定することは何うしても理屈に合はぬ。又實際に保育して居る處を見ると積木の組の種類に係らず其數を加減して居る人が多い。此事實は吾人の主張を證據立つるものと云はねばならぬ。

以上述ぶるが如く吾人は材料の物質と形と數とを必ずしも一定しやうとするものではないが、中に就きて積木は取扱上最も便利なるものとして幼児教育上必備のものと思ふのである。然らば其の形は如何なるものを最もよしとするかと云ふに之を幼児の實際に徴するに煉瓦形な長方體は最も幼児の興味に適する様である。次に最も好まるは正方體及其半切であるやうである。三角體及方柱は稍發達したものに必要のやうである。尙進みては圓柱及長方體の二個をつなぎたるものを加ふることは確かに興味多きことであらうと思ふ。而して幼児の用ゆる數の最多限はフレーベルは三十六個とし附屬幼稚園に於ては二十八個として居る。吾人は多きに從ひ四五十個乃至百個位(各形態を取り交せ)を設備して置くことは必要なことであらうと思ふ。左に之を表記して見やう。

- | | | |
|-------------|-----|-----------|
| 長方體 | 十六個 | 巾一寸長二寸厚五分 |
| 同二個(つなきのもの) | 四個 | 巾一寸長四寸厚五分 |
| 正方體 | 八個 | 一寸立方 |
| 同半切體 | 八個 | 一寸平方厚五分 |

- | | | |
|------|-----|--------------------|
| 大三角體 | 八個 | 二等邊各一寸 |
| 小三角體 | 十六個 | 基底一寸(四個併セテ方體トナルモノ) |
| 大方柱 | 四個 | 徑一寸長四寸 |
| 小方柱 | 八個 | 徑五分長二寸 |
| 圓柱 | 四個 | 直徑五分長二寸 |

以上の數は常に幼児の使用す可きものとして一まじめに之を置くとか一定の箱入にして置いて常に之を興ふるとか云ふ方法を探る必要はない。時に應じて適當の數丈或は保姆之を選び或は幼児自身をして選ばしむ可きである。尤も家庭などでは買入上一組としての方が便利であらう。以上普通机上用の外、二倍又は三倍大のものを特に使用する所もある。幼児は此方を寧ろ悦ぶ様である。砂場及遊園内に於ける積木は煉瓦の實物大位のものを選ぶのがよろしい。他の形態も之に準じたるを可とす。幼児の積木を指導せんには初めは先輩幼兒の積木遊びを見せしむるか又は保姆自身の模範を観察せしむることより始めなければならぬ。此時に於ける形態の種類と數とは保姆の選んでやる必要である。それより漸次に自由構造に、

入り遂には材料の自由選擇にも入る可きである。進みたる自由製作の中には積木の糊付も面白いだらうと思ふ。元來から云へば積みたるものが直に崩され、又積み直はざるゝところが面白い所ではあるが進みては折角、造りたるものを直に崩すこととの惜しき様になるものである。此時には之を糊付にして置いて多少の時日間保存することが出来たらば面白からうと思ふ。数日の後愈不用に歸したる時は消毒を兼ねて洗へば亦元の通りにするところが出来るから、別段何事の不都合もない。唯一度糊付にしたらば洗はぬ迄は他の材料を以て間に合はせねばならぬ故、多少材料の多くを設備する必要がある丈である。勿論、之に用ゆる糊はうどん粉か、生糞糊の様な水に弱いものが適當である。本會編纂の圖形に示してある所の材料は先輩幼児又は保母の積みて見せしむ可きものを蒐集したるものにて従つて幼児自身の製作物も此中にある可きである。併しながら幼児の發表する所は凡ての幼児必ずしも一定して居らぬ。過去の經驗の相違よりして其發表は種々に差異ある可きである。故

に圖形は參考とすることは宜しいが必ずしも守るべきものではない。且彼圖形は主として一定の數を以て工夫せるものを集めたので記者の主張より見れば多少偏傾せる嫌がある。今後の保育者は斯る益なき制限に拘泥せず、自由なる發達を心掛く可きである。木片以外の材料に囚れる積方は遊園又は野外遠足の際等に行はるべきで、時に採つて頗る興味あるものではあるが、大體は幼児の自由製作に任して置いて差支なきものである。

女子の高等教育 (浮田博士)

少數の人間の教育を受ける時代には、學者が威張り散らして仕方が無い、男子のみを教育して元來男子と女子の心を續き合つたものである。子孫傳の上から云つても、子供は父母の性質を同様に受けるものであるから、若し眞に男子の教育を高むるには、勢ひ女子の教育を高めねばならぬ。福澤百話を讀み、大層感した事は、母の感化の力が大なることである。福澤翁の頭風を取つてやられた、と云ふ事が書いてある。屢々乞食の頭風を取つて、佛敎の感化が如何に知らぬが、乞食も自分も同母で居るのである。福澤先生生涯の精神の出所が茲にあつたと思はれるのである。

幼稚園の保育を終りたるものと
家庭より直ちに入学したる者と
小學校

に於ける成績の比較

東京市京橋區
朝海小學校長 笹野 豊美

幼稚園から来た兒童の成績が、普通の家庭から、
来た兒童に比べて、どうであるかと問はれたら、
誰でも幼稚園から来た兒童の方が、成績が良いと
答へるでせう。それは良いには良いでせうが、幼
稚園から来たもの、中にも、随分成績の面白から
ぬものも、往々實見しますから、果して、何位良
いものかは、斷言するに躊躇するでせう。私も、
聊か幼稚園の保育の、小學校教育に及ぼす影響が
何の位であるかは、常に興味を以て、研究して居
ります。これまで、この關係について、研究の結
果を、發表したものをみるに、大抵は只だ粗漏の
結果を、漠然たる評語で、言ひ表はしたまでい、
統計的に之を比較したものを見ないのは、甚だ遺
憾です。そこで、今我々の兒童につき、統計的に
兩者を比較して、見るのも無益ではないかと思ひ

八

ます。しかし、この統計についても、豫め御斷り
して置きたいのは、兩者の員數に非常な違ひのあ
ることです、そこで、この統計の結果で、直様兩
者成績の良い悪いを、絶對的完全に判定すること
は、出来ませんけれども、兩者の員數同數を得る
ことは、何れの時何れの所でも到底不可能のこと
かと思ひますから、『中らずといへども遠からず』
の古諺にもれず、この統計の結果で、幼稚園の保
育が、小學校教育に及ぼす影響の主要を知るに足
ると信じます。

第一 幼稚園修了者と手工科成績

手工が近來加設せられた教課であるとして、眼前に其
の成績が提供さるゝので、一般父兄の注意を喚起
したことは、疑ひなき事實です。即ち、或る父兄
は、『私の子供は、他の學科は皆な甲か乙かであ
るのに、手工だけは、何故丙でせうか』又、『私
の子供は手工が何時も、不成績ですが、之を家庭
で練習させるには、どうすれば、良いか』又、『私
の子供は幼稚園から入学したので、手工は
良くあるべき筈なのに、何時も他の學科よりも悪

○手工科成績統計表

性 別		學 年		種 別		男		兒 童		女		兒 童	
家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼
45	13	50	10	48	14	50	18	7	25	19	13	19	13
二四・四五	三〇・七七	一八・〇〇	一〇・〇〇	三一・二五	五〇・〇〇	二〇・〇〇	四四・四四		一二・〇〇	一〇・五三	七・六九	一〇・五三	七・六九
11	4	9	1	15	7	10	8	1	3	2	1	2	1
七三・三三	六九・二三	六六・〇〇	九〇・〇〇	六二・五〇	三五・七一	七〇・〇〇	五〇・〇〇	一〇〇・〇〇	七六・〇〇	八九・四七	六一・五四	八九・四七	六一・五四
33	9	33	9	30	5	35	9	7	19	17	8	17	8
二・二二		一六・〇〇		六・二五	一四・二九	一〇・〇〇	五・五六		一二・〇〇	八九・四七	六一・五四	八九・四七	六一・五四
1		8		3	2	5	1		2	17	8	17	8
54	4	55	5	45	14	48	20	13	19	19	13	19	13
二四・〇七	五〇・〇〇	二一・八二	二〇・〇〇	一五・五六	四二・八六	一六・六七	三五・〇〇	七・六九	一〇・五三	一〇・五三	七・六九	一〇・五三	七・六九
13	2	12		7	6	8	7	1	2	2	1	2	1
七〇・三七	二五・〇〇	六七・二七	六〇・〇〇	六四・四四	五七・一四	七二・九二	六五・〇〇	六一・五四	八九・四七	八九・四七	六一・五四	八九・四七	六一・五四
38	1	37	3	29	8	35	13	8	17	17	8	17	8
五・五六	二五・〇〇	一〇・九一	二〇・〇〇	二〇・〇〇		一〇・四一		三〇・七七					
3	1	6	1	9		5		4					4

くて、乙、丙なるは如何でせうか。』とは父兄から聞かざる、質問です。中でも、第三の質問、即ち幼稚園修了者の手工成績については、理論上から見て、それは、良い筈ですが……』と、漠然たる

考で、漠然と答ふる外に、統計的の数字を持たざりしには、誠に遺憾に感じました。由つて今左に其の統計を挙げて見ませう。

六	小計		合計	
	家	幼	家	幼
40	86	240	154	496
22・五〇	二六・七四	二二・五〇	二九・八七	二〇・七七
9	23	54	46	103
七二・五〇	六六・二八	六九・五八	六四・九四	六九・七六
10	29	57	100	346
一〇〇・〇〇	五〇・〇〇	六〇・九八	五〇・九一	九〇・四七
6	256	68	8	47
八三・三三	一九・一四	三三・八三	一九・一四	一九・一四
5	49	23	49	49
一六・六七	六三・二三	六九・九二	六九・九二	六九・九二
1	32	43	179	179
1	1	2	2	28
1	1	2	2	28

備考

一、種別欄ニ「幼」トアルハ幼稚園修了者、「家」トアルハ家庭ヨリ直接ニ入學シタモノデス 二、甲ハ十、九乙ハ八、七六丙ハ五、四點ヲ得タモノデス 三、總數ハ學級ニ於ケル總數デ委員ハ其一部デス 四、總數、員數ハ算用數字、百分比、學年別ハ日本數字デス 五、手工ノ考査ハ四學年男ヲ除クノ外ハ同一ノ人ニヨツテ採點セラレタルモノデス 六、小計ハ男女各別ニ計算シ合計ハ男女合ハセテ計算シタモノデス。

右の統計によつて、次の數件を確むることが出来ます。

- 一、甲の成績を得たもの、丙の幼稚園から来たものが他のものに比べて、遙かに歩合良きこと。
- 二、幼稚園から来たものは、丙の成績割合に少なきこと。
- 三、男児の方は、幼稚園修了者と否とにより、成績歩合の差が、少なきに、女児の方はそ

○全學科成績統計表

四、男児は女児に比べ、甲の成績のもの多くての差甚だしきこと。

第二 幼稚園修了者の全學科の成績

丙の成績のもの少きこと。
幼稚園に關係多き手工科では、家庭から直接来たものに比べ、非常に成績の優良なことを確認しました。然らば全學科の成績では如何なる結果を齎すかを次の表で示しませう。

も ど こ と 人 婦

性 別	學 年	一		二		三		四		五		六		小 計		(合 計)			
		家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼		
男	總數	25	7	18	50	50	48	10	50	13	45	6	40	240	240	154	495		
		百分比	三六・〇〇	二八・五七	三三・三三	一八・〇〇	五七・一四	二二・九二	一〇・〇〇	一八・〇〇	三〇・七七	二二・二二	三三・三三	二五・〇〇	三四・八八	二二・二五	三九・六一	二二・一八	
		員數	9	2	6	37	8	11	1	9	4	10	2	10	30	51	61	310	
	兒	總數	15	5	12	37	5	35	9	37	9	33	3	29	53	176	89	358	
		百分比	六〇・〇〇	七一・四三	六六・六七	七四・〇〇	三五・七一	七二・九二	九〇・〇〇	七四・〇〇	六九・二三	七三・三三	五〇・〇〇	七二・五〇	六一・六二	七三・三三	五七・七九	七二・一八	
		員數	15	5	12	37	5	35	9	37	9	33	3	29	53	176	89	358	
	童	總數	1																
		百分比	四〇・〇〇																
		員數	1																
	女	總數	19	13	20	48	14	45	5	55	4	54	6	41	68	256			
			百分比	一五・七九	七・六九	六五・〇〇	三七・五〇	五〇・〇〇	三一・一一	四〇・〇〇	二五・六四	五〇・〇〇	一一・一一	六六・六七	一七・〇七	四五・五九	二三・〇五		
			員數	3	1	13	18	7	14	2	13	2	6	4	7	31	59		
		兒	總數	15	10	7	26	7	30	3	38	2	45	2	33	36	82		
			百分比	七八・九五	七六・九二	三五・〇〇	五四・一七	五〇・〇〇	六六・六七	六〇・〇〇	六九・〇九	五〇・〇〇	八三・三三	三三・三三	八〇・四九	五二・九四	七一・〇九		
			員數	15	10	7	26	7	30	3	38	2	45	2	33	36	82		
童		總數	1																
		百分比	五・二六	一五・三九		八・三三		二・二二		七・二七		五・六六		二・四四	一・四七	五・八六			
		員數	1	2		4		1		4		3		1	9	15			

備考 一、各學級擔當ヲ異ニスルカラ甲、乙、丙ノ成績考査ノ標準及ビ方法等ニ相異アルヲ免レザルコト 二、其他ハ前表ノ備

考二同シ

右の統計表により左の數件を確むることが出來ます。

- 一、甲の成績の歩合は、幼稚園修了者が家庭より來たるものに比べ、殆んど二倍に近きこと。
- 二、丙の成績の歩合は、幼稚園修了者は家庭より來たるもの、半分にも足らぬこと。
- 三、男兒は、幼稚園修了者と、否とにより、成績の歩合の差少なきに反し、女兒は其の差

甚だしきこと、手工科に同じ。

四、手工科の成績に比べて、全學科の成績の方遙かに歩合良きこと。

前の二統計表により、幼稚園修了者は、他の家庭より入學したものに比べて、手工科は勿論全學科の成績も、遙かに良好なることは最早疑ふべからざる事實であります。これは學業の成績だけの比較ですが、尙ほ操行、其他訓練に關する統計は、後日述ぶることにいたします。

◎女には大學教育不必要

△女傑になり損へば墮落

男子が大學に入つて法律なり、醫學なりを研究するのは、何も道樂にやるのではなく、一の職業として學ぶのである。

女子は一般に結婚して家庭を作り、子女を教育するのが天職であつて見れば、高等の専門教育を受けた所で、第一是を應用する機會がない。加之女が生ながら高等教育を受けると直ぐ有頂天になり、奴隷でもないのに解放を叫んで見たりして、普通の所には縁付かない、妾は大學を卒業したから、夫たる人も須らく大學以上の教育ある紳士でなければならぬと、又は田舎の土臭い男は嫌だとお言つて、強いて東京に於て配偶を求め、男子の方では斯んな虚榮心の強い女を娶ると、生活費も嵩むし、甚だ厄介だから大抵の者は敬遠する。其間に月日はどん／＼経つて、二十歳の女が二十五になり、六になり七になると、生理上からも精神上からも種々の壓迫が加はつて來て、内々煩悶する。斯くして意思の弱い者は遂に墮落し強いは全く男性的に化し、今度社會に立つて男子と競争しやうと逆襲して來る。其中成功した者が所謂女傑と稱せらるるのである。女傑も稀には可い。併して一般の女子は女傑を目的とすべきでない。若し凡ての女が女傑氣取て居たならば、國家は滅亡するであらう。

(澤柳政太郎)

育兒實驗談

光藤泰次郎

一、幼稚園通ひ 私は子供を育てるに、どんな主義を以てしたかといふに、鍛練主義を以て養育しました。諺に可愛い子には旅をさせろとある通り、機會ある毎に旅をさせる流儀を採用いたしました。最初幼稚園まで見送りはいたしましたが、決してついで居るといふことは致しません。幼稚園から宅まで歸りまするにも、初の四五日はつれ歸りました。道に馴れましてから、自分一人で歸るやうにしつめました。尤も其の頃は、あまり宅と幼稚園との距離もはなれて居ませんでしたから、幼稚園の昇降を己一人でするに、至極適當して居たかと思はれます。

二、距離の増大 明治三十九年の暑中休暇後、牛込の方面へ轉宅をしました。此處から御茶の水の幼稚園までは、大人の足でいそいで三十分、子供の足では四十五分乃至五十分は確にかゝつたので

あります。急に距離が増大したので、其の結果は如何あらうかと内々心配して居ました。本人は一向平氣なもので、朝は自分の行く方面も同じです。から、大抵一所に參りましたが、歸りは時間が一致しませんので、ずんずん先に一人で歸つて來ました。人力車は通る、荷馬車は通る、電車は通る、自轉車は通る、さぞ危い事であらうと心配は無論ないでもありませんが、それでも一度の過ちもな

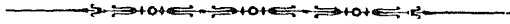
く通ひとはせました。

三、幼稚園通ひの結果 此の幼稚園通ひの結果は著しく子供を健康にし、足を達者に致しました。それ故たまの日照を擇んで、田舎へ遠足など致します。折にはかなりの遠距離をあるきまするに、殆ど大人と同様にあるといふ結果を得ました。東京の高等師範學校に於て、年々長距離競走を試みますが、其の結果は、大抵第一寄宿舍のものよりは第二寄宿舍の方が成績がよいやうに聞いて居ります。それは第一寄宿舍の方は通學を要しませんが、第二寄宿舍の生徒は、毎日毎日四十五分程

の道程を餘儀なく通學せしめらるゝにかやうな結果の相違が得られたのであらうと思ひます。更に地方の學校になりますと、中學校あたりでは寄宿舎にはいる生徒もある代りに、三里四里の道を通ふ生徒もあります。運動會の徒歩競走に於て、如何なる生徒が第一等の成績を得るかといふに、大抵通學をしてゐる生徒であつて、宿寄舎に居る生徒は殆ど之に與らないやうな有様であります。それ故に私はかう信じて居ります。學校へ通ひまするに、身體の爲から申しますると、あまり近いのはよくありません、適當の距離を通して、不識の間に相當の運動をさせるのが必要である、かう信じて居ります。所が近來交通機關の發達のために、折角通學に適當なる距離の所に住みながら、我が足を使用しないで、電車の便を借りるやうになつたのは、非常になげかほしい次第であると思ひます。電車といふ者は三つの不便を持ち來しました。第一學生に餘分の金をつかはせる、第二は徒歩の好習慣を廢させる、第三は折々遅刻をさせる、學校へ通ふ所の子供を持たるゝ親たち

は、よく利害得失を考へらんことを望みます。四、遠距離徒歩の試み 一年暑中休暇に房州富浦なる水泳場に参りました。其の際子供も連れて参りまして、日々海に入れて居りました。或る日北條へ行く必要がありまして、出掛けて行きました。富浦から北條までは約二里の道はありましよう。熱い時ではあり、道のりも餘程ありますので、どうしやうかと思ひましたが、例の鍛練主義で子供にあるかせました。始めは行けるかどうかと危みながら、折々は休ませながら、とうとう北條の町まで参り着きました。歸りには最早自信がつきましたのと朝の疲勞が回復したのでありましよう、二里の道を殆ど休むことなく、歸つて参りました。若しあれが不斷成りの距離を通つてゐなかつたら、とても此の試みには堪へられなかつたであらうと思ひますが、常に相當の距離を通學して居りましたお蔭で、先づ美事に成功いたしました。

それからその翌年の夏矢張り富浦へ参りまして、子供も共に連れて参りました。一日鋸山へ登山



しやうと思つて出かけました。昨年の経験もあり
ますことと子供も共に連れて参りました。保田ま
で汽船の便を借り、保田へ上陸して、愈 鋸山
に登りはじめました。子供は外の者と同様に駒下
駄で登りました。随分暑い日でありましたが、日
本寺の方から、五百羅漢のあたりを經て、難なく
絶頂に登りました。暫く休憩をして、あたりの好
景を展望して、さて石切場の方へ下りそこを見物
して金谷へと下りました、それから富浦まで道程
四里、これは昨年よりは、更に樂に子供はあるき
通しました。そこで私はかう考へました。若し子
供の時から、適當に訓練をしたならば、一日に十
里や十五里の道を歩行ても平氣で居られるやうに
なるにはさして困難ではなからう、訓練といふこ
とはかういふ事にも必要であると考へました。
五、水に馴らす事 幼少の折から冷水摩擦をさせ
て、皮膚の丈夫さを増すやうに工夫してゐること
は、前にも一寸申しましたが、此の外、水に馴ら
すといふことをやつて居ります。都會に育つ所の
子供は兎角、天然に接觸する所の機會に乏しい、

それ故に、日曜なり暑中休暇なりには、つとめて
田舎に出かけて、天地の大自然に接觸せしめるこ
が必要であらうと思ひます。漁師の子供などを見
ますと、極少さい時から海にはいり、海岸で遊ぶ
からして、よく水に馴れて、少しも波に驚きませ
ん、皮膚も打見らから如何にも丈夫らしく思はれ
ます。それで私も子供を三つの時から海水に入れ
ました。一體海水に入れるのは幾つの時から入れ
るのが適當であるか、醫者の方の説は知りません
が、私の経験では、餘程効があつたやうに思はれ
ました。第一に夜非常によく熟睡し、第二に食欲
がまし、第三皮膚が丈夫になりました。其の外一
般健康状態が餘程良好になつたと信じて居りま
す。
少し大きくなつてからは、幾分水泳の練習にもな
ることと、大抵機會があればつれて行く事にして
居ります。しかし水泳の練習のことは、まだ幼稚
園時代では殆どいふに足りません。けれども兎に
角水に親しみ、水をおそれず、後來水泳練達の基
本だけは或は得らるゝでないかと思ひます。水泳

練習は小學時代の後期或は中學時代に於て敢へて遅くはないと思ひますが水に親しませるは、幼少の時代の方から行せる方がよいかと思ひます(完)

個人主義の弊

鹽野奇零

この個人主義なるものは、多少よい所もあり、所謂天上天下唯我獨尊で、我は我なり、自主獨立決して他人の干渉をうけないと云ふ氣風で、天涯地角到るところ青山あり、父母妻子兄弟親屬なども自分より重くはない、自分の欲するところは何者にも妨げられないといふ考であります、思ふにこの個人主義の發展は、各人平等の憲法となり、萬里絶域に領土を擴めたところの原因であらうかと思はれます、日本は元來この個人主義とは正反對の家族制度の國で、新民法も殆んど兩主義を折衷したやうな主義をとつてあります、然るに泰西文物の輸入と共にこの個人主義といふものが、追々行はれて來ることは確かなことで、又現に行は

れつゝありますから、その弊害を知つておくことは甚だ必要なこと、思ふのであります。第一、個人主義は申すまでもなく家族主義又は國家主義とは反對であります、自分より他のものは見ないのであるから、國家のために生命財産を擲つやうなことは甚だ薄い、この主義の極端なのは共和政治ですが、共和政治の國に於ては、兵士や軍人の愛國心は、君主政體のそれよりも遙に薄いので、随つて戰鬥の關係に於ても弱いといふことは、今日の定論といつても宜しいのです、日露戰爭に於ても、露國は君主獨裁の國であります、歐羅巴に發達して來た所の極端な個人主義が、其の國人の間に浸染して、生命あつての物種である、國家は自己の利益のためにあるのである、などといふ考が兵士軍人の間に抱かれてゐるので、自然と戰鬥に弱いことになつたのであります、之はひとり露國ばかりではない、個人主義の盛んな國はこれから戰爭はだん／＼弱くならうといふことは、斷定しても宜しいのです、つまり個人主義の第一の弊害は、非國家主義になるといふとです。

第二、個人主義のためには、家庭の結合力は、殆んど破壊されてしまうのです、歐羅巴では、婚姻といふことは一の合名會社の組織ともいふべき有様なので、婚姻契約又は夫婦財産契約といふ、二つの甚だ了解し難い觀念があります、平易に言へば、二つの財産を所有したものが一緒に住むといふのが、あちらの婚姻状態の簡單なる言ひ表しなので、婚姻して後も、夫がひとり樂をする譯にいかぬ、妻も同等の樂みを要求するので、夫のために妻が自分の身心を犠牲にすることは毫もないのであります、又夫婦が自分の生兒に對する愛情も甚だ薄いので、日本の母は、朝から夕まで自分の子を膝下におかないと氣がすまないのです、西洋の母は、寝るときになつて僅かに接吻してやる位です、飯をたべる時も、外出する時も殆んど親子の愛情といふものは、日本のそれとは全く相違して居る、つまり我は我、子供は子供、子供は別の財産主體なのであります、日本人の我々には、錢は父が所有して居るものときまつて、子供が別の財産主體であるなどの考はなかつたのです、ま

た西洋では、父母が自分の個人的の安樂を欲するために、兒童を生むことを制限します、避妊、墮胎などの恐るべき罪惡をも行ひます、これも全く個人主義の結果です、こんなことで家庭の結合力といふものが、極めて弱いものとなつて仕舞ふのであります、我は日本に男女同權といふことを主張する女子教育家もあるを聞いて居りますが、男女同權は個人主義から起つて居るもので、個人主義と家庭主義と反對して居る以上は、男女同權は成立しないのです、西洋にては根本の主義が違ふのです、然るに日本の今日に於て男女同權を唱へるのは、大に間違つて居ること、思ひます。

第三、傭者と被傭者との關係に就て弊害があります、日本には主従三世といふ位で、容易ならぬ深い關係ですが、西洋では個人平等、被傭者だとてなかく、頭が高いのです、この結果は工業の發達に非常なる關係がありまして、所謂被傭者同盟、即ち職工同盟とか職工組合といふものが總て發達して居るのみならず、一方には一切不從順といふことが蔓延して居るので、亞米利加などの下女や

下男が、非常に不従順なることは社會上の驚くべき現象です、別して工場などに於ける職工の不従順は非常なもので、日本には主人が工場に來ると、濟まないといふので職工は鉢巻をとるのですがあちらでは主人の方から職工どもの機嫌を伺つて帽子を脱ぐといふ有様である、かくの如き儲者被儲者間の惡關係は、要するに個人主義の結果であります。

まづ以上は個人主義に伴へる社會上の主なる弊害であります、我が國は個人主義の諸外國と交通が盛んなので、かような主義が大層蔓延して來るやうですから、將來の教育方針を定むるには最も深き研究を要すること、思ひます。

兒童の恐怖心

樂 天 子

恐怖といふことは兒童には早くから現はるゝ所の感情であつて、始めは兒童の自然に持つて居ると、この性質によりて何か恐れるやうです。夫から段々と種々の經驗を積むに従ひ、自分の智力に訴へたる恐怖を生ずるやうになります、試みに恐怖の起る原因を區別して説明して見ませう。

でいふて見ると、鶏の雛が、まだ鷹を見たことがないのに、始めてこれを見て恐怖するやうな類は、遺傳によるといふより外はありません、小兒に就て見ても別段の理由もないのに暗黒の所を恐れたり、又は馬を見て恐れたりするのがある、どうも之が何のためであるか分らぬことがあるのは、其の原因が遺傳にあるといふより外はありません、即ち一個人の生活の中の經驗からは説明が出来ないので、何か人類が現今の發達をなすまでの間に恐怖するやうな理由があつて、其の性質が生れながらに備はつたものと考へるよりほかはありませぬ。

第二の原因は兒童の無知識なることです、例へば海岸に立つて波の寄るのを見るときに、實際波が自分の所まで來ないことは明白であるのにこれを恐怖しますのは、畢竟兒童が無知識であつて考へが足りないから餘計の心配をするのでせう、其の他にも大人から見ればつまらないことで、少しも恐るゝに足りないことまでも恐るゝのは決して少なくはないのです。

第三の原因は身體が虚弱であるといふことです、一體に身體が弱いものは、何かの刺戟を受けたときに、非常に感じ方の強いものであります、夫がために恐怖を起すことも亦甚だしいのであります、つまり身體の虚弱のために、神経が過敏に傾いて居るのであります、之も亦我々の注意を要することであると思はれます。

第四の原因は兒童の經驗であります、例へば今兒童が燈光に手を觸れました爲めに、手を火傷したといふ經驗がありますと、其の後は燈光に近づくことを恐れるやうになります、これは實に自然の勢であります、この類のものは、即ち經驗のために生じたる恐怖であつて、つまり理窟になつて居るものであると思はなければなりません、大人にても之と同様なことがあります、君子が危きに近よらないのは、經驗上危いことを認めたからで、兒童が一度經驗上危いことを認めた場合に之に近寄ることを恐れるのはこの部類に屬します。

子供の健康を圖る事

光 藤 夫 人

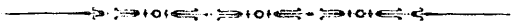
世の親達が子供を育てるにつきて、最も心配さるる事は兒の病氣にかゝる事で御座いませう。いかなる人も我が子の病にかゝる事程ひどい心配はありまますまい。だから色々工夫をして其の恐ろしき病にかゝらぬ様、意を用ふるこそ誠に親切な育て方とこそいふべきであります。それにつきましては世の母親達はどんな注意を拂はれ居りますか、どんな計畫をなされて居るか知りませんが、私共は大要

- 一、冷水摩擦
 - 二、温浴法
 - 三、運動
 - 四、滋養品の供給
 - 五、唱歌
 - 六、虚榮心の萌芽をつみとる事
 - 七、出來得る限りの仕事を命ずる事
 - 八、身心鍛練
 - 主義を致して居ります。
- 今順次少しづつ、説明して見ませう。

冷水摩擦の習慣をつける事
冷水摩擦の効用は今更こゝに改めて申す必要は

ありますまい其の大切なる事柄でもつい面倒なとか何とかの理由の下に立消えとなるの例は少くありますまい。ことに子供に冷水摩擦は一寸やりつけないと面倒なといふ様な感じも起りませう。夏は未だ宜しいが、冬の雪の朝など眞ばだかにして、ぬれ拭でキユー〜ことすり込みますと、弱い女の子などは泣き出す事もあります、しかし其れを行ひつゝア、お前は強ひさすがに日本女子だとか、色々慰めてやります。何の二三分もかゝれば少さいからだはよくすれま

す。
朝五時半より六時の間に起き出ますと、すぐ歯をみがかせまして、湯殿に入りて、顔を洗ひ、水をかぶり、極幼少な兒女は、冷水摩擦をさせます。そして着物を變へお早ふをさせます。
冷水摩擦は忍耐力養成の好材料
冷水摩擦は身體を強健にするの効があるばかりではありません、心の鍛練になります。殊に忍耐力を養成するには、よき材料となるので御座います。何につけ子供を育てます時には、よく



機會をとらへ、事を洞察して色々の道徳の種を植ゑ付け置く事が必要で御座いますが、殊に此の忍耐力などは、寒風身を刺す如き早き晨に、氷るばかりのつめたき手拭でコヌルなどはよき事柄であらうと思はれます。始めは泣く程つらく感じましても、親の方で種々慰めすかし、怠らずやりますれば、どうでも我慢してやらなければならぬと、子供ながらに覺悟しまして、自らやる様になります。ア、此處に忍耐の種は立派に蒔かれ得られるでは御座いませぬか。

忍耐力のないものは我儘と無能になり易い。私は世の我儘で、持餘し子を見ますのに、大抵忍耐力に乏しいのが多いかと存じます。之は種種其の子の系統や境遇や、原因も御座いませうが又此の幼少の時より忍耐力などの養成に、母親及び保育者が意を用ひなかつた結果かと思はれます。

我儘に同情する母親
優にやさしきは女の徳として賞讃しますから、母親だとても無論其の範圍を脱することは出来



ますまい。しかし較もすれば其の優を誤解して軟弱なるを尙ぶの風がありはしますまいかと思はれます。軟弱にして事々に折れ易きが女の徳の如く誤解されて、母親が子供に對しても、矢張優さしきを主とし、つひに柔弱に流れる風はありますまいか。柔能く剛を制すてふ語の如く、優さしきはよけれど、之も度をすぎると軟弱になる憂があります。軟弱になりますと、どうも此の忍耐力とか剛健の徳は其の印象を子供の腦裏にしみこませる事が出来ません。いつもよく機會に遭遇しても其の好機を透して仕舞ます。

例へば子供が時ならぬ時に空腹を訴へると、オーお腹がすきましたか、それではお菓子でもとすぐ與へます。又は朝水で顔を洗ふのがつめたいと言へばすぐ湯を與へるとか、全然空腹で堪へられないならば其れはマー仕方がありませんが、それでも少し位の時間あらば今に飯時が來ますから、少し我慢をなさ

い、我慢すれば御飯の時によくおいしく頂けます。サー積木でも積んで見ませう、何がよ

ろしいですかと心を變へさせまして、少し位づ、でも我慢をさせます。

朝水で洗ふなどは殊によりき習慣であるのを、矢張子供と言ふなり湯にさせるなどは、保育者に此の鍛練主義の念慮が乏しい故かと存じます。

右は一例に過ぎませんが其の他かゝる事は一日に何回となく起るので御座います。其の都度母親がよく氣をつけて、子供の我儘に同情しないで、忍耐の種を蒔く事が肝要であります。

尊き天職を帯びたる母親は優さしぎ中に剛徳を具へざるべからざること。

優さしきを尙ぶ女親が我が子に忍耐力の種子を蒔かうとしたしますには、どうしても其母親自ら、女らしき中にも凛として犯すべからざる女丈夫でなければ到底不可能で御座います。なみの女とかおはあさんなどは、一寸見てもブルブル顛へる様な寒き朝、素はだかにしてありますから、アームイではありませんか、早くそんな事をせずに着物を着せておやりと、我儘

な子に同情して、其の我儘を増長させます、時に。マーンでも御座いますが身體の爲めになりますから、どうぞ御心配なさらないでと、傍人の注告に逆らひ、子供の心情に同情せずに、ドン／＼やるので御座いますから、餘程しつかりした氣性を持たなければ出来ません。

しかし世の母親と呼べる、尊き職責を負はる人は、此の位の事が出来ないでは母親の尊稱は受けられまいかと存じます。オ、寒いか、それでは冷水摩擦をやめませう。オ、恐いか、それ

では私が負んぶして上げませう。オ、食べたいか、それでは之をといふがまに、其の我儘を増長させます様な親は、親たる光輝ある天職に對して耻ぢなければならぬ事と存じます。

我儘でこまる我が子を悪く言はるゝ世の親達よ、少し自らの幼児に對する仕打の如何ありしかと追懐されるれば、必ずや其の種は我が手で植ゑ付けられし事を悟らるゝ事がありませう。

どんな六ヶしい事でも一度や二度位やる事はなんでも御座いませぬが、やさしい事でも毎日毎

日三百六十五日一日も缺かさずやる事は、中々出来にくい者で御座います。此の冷水摩擦でも其の通りで一寸やつては又やめ、又やつてはやめる様ではいけません。只子供の身體に故障のある時ばかりは、いたし方が御座いませんが、其の他は必ずついでにやらなければ効は薄う御座います。

二、温浴法

身體の清淨
朝から晩まで十時間ばかり殆んど静座して居るといふ事なき子供の外に出ましては、モーかけずり廻つたり、垣根に上つたり、木に登つたり、土をいぢつたり、石投げをしたり、箱庭を作つたり、球を投げたり、コマを廻したり、絶えず活動しますし、家の内に居りましても、机の上に登つたり、椅子をひつくり返したり、鬼ゴツコをしたたり、隠れん坊をしたり、積木をしたり折紙をしたり、それはモーく一寸のすきまもなく動きます。

殊に夏になりましては、ヤレ蟬とりだの、トン

ボ釣りだのと毎日／＼竿にモチをつけて野外に出で、汗タラ／＼になつて歸つて参ります。

ソで御座いますから、着物もモーよく汚しまして、洗濯のない日はない位で御座いますが、同時に子供の身體もよく汚れます。外部よりつく塵内部より出る垢で、身體の汚なくなりません。事は當然で御座います。之れを晩の五時頃からお湯に入れまして、シャボンで以て頭の頂より足の先まで奇麗に洗ひ浄めてやりますと心持もすが／＼として参ります。

身體を暖める事
お湯から上つてねまきに着換へますと、身體も何となく温まりまして柔らいで、何となく、眠り易くなりまますから、子供の方から晚餐のさいそくが出る位、それから食後少し椅子によりて、大机の上で大きな子は繪をかき、復習をさせ少さい子は折紙やら積木やらさせまして、七時頃よい心持に床に入らせます。之も冷水摩擦と同じに三百六十五日殆んど缺かしはいたしません。

三、運動

運動會

活動は子供の天性で御座いまして、病氣でさへない時は、いつたつて静止する事は御座いませんが、その自然の活動のみにまかせて置かして、も、まだ私は身心を鍛練する事は出来ないと思ひまして、いつも毎日一二回位は之を督勵します。

此頃の麗らかな好天氣の時などは、格別、戸外に出しまして徒歩競争をやらせます。二三町ばかりの近所まで用意ドンでかけつくらをやらせます。長男の九歳になりますは、幾回やらせましても平氣で御座います。次男の五歳になりますのは、三回位やらせますと途中で泣き出します事も御座います。それでもアーユライ、途中やめしないです全部かけて來ましたのは中ユライと頭をなでながらほめてやりますと、それでもニコ／＼して、少し休み又競争に出かけます。又庭園の周圍をかけらせる事も御座いますが、

餘り距離が短いので、三歳四歳の子には丁度よろしいが、長男などはつまらないとて、屋敷の外を好みます。

又雨天の時は家の内で、旗などをこしらへて帯で以て綱引やかけつくらやら、體操やらの競技がはじまります。或は又時としては作法會の様な事をしまして座禮やら立禮やらの極簡單な事をいたしますと大喜びでやります。

其の他春夏秋冬によりまして、多少違は御座います。外様のお子様の様になるべく着物を汚さない様にとの懸念より、折角快活にやりかけました運動を中止させる様な事はいたしません、木綿の粗服を着けさせてある代りに、汚す事は八ヶ間敷申しません、只絹布を用いた時丈はよごさぬ様にと注意しますが、平素はマ一洗濯位は子を持つて親の役目位に考へまして八ヶましく申しません。只なるべく出來得る丈はげしき運動をやらせる様勵行いたします。

遠足 私共の小石川の宅から護國寺までは三十町ばかり

りもあらうと存じますすが、皆様御存じの如く、護國寺は名に負ふ巨刹殊にお堂の後の方は一面の草原で、周圍は樹木鬱蒼として、春の花は言はずもがな、夏とても静かで、しかも子供の大好きな蟬やトンボが群をなして居るもので御座いますから、一度こゝに身を入れますと、尤で夢中になるのであらうと思はれます。

或日九歳の長男を始め以下三人の兄弟が護國寺に行かして呉れと申し出ました。勿論同寺に行きますのは今が始めていはなく、已に下女に連れられて二回行つた事がありましたから、大抵道も様子もよく存じて居る事と存じて許可を與へました。柝し幼き兄弟のみ打揃ふて行くのは始めて、御座いますから、よく左の如き注意を與へておきました。

一、之から護國寺にいつたら蟬を取つて午後四時までに必ず歸宅すべき事（出發時間は午後〇時半）

二、行先を間違へない事
此の二條件で子供を出しました。子供は大喜び

で雀おどりして出ました。私は子供の勇ましい姿を見送りまして、二條件について左の様に考へました。

多分時間の所は時計はなし、間違へるならん。しかし先の場所さへ明かであれば迎へに行く事にしませうと。

三時を報じて四時が來ましても、遠征軍の一隊は歸る氣色は御座いません。多分彼の原で夢中になつて蟬やトンボを追ひつゝあるのであらうとは思ひましたが、だんく時經つにつれて、心許なく思はれ出しまして、ついに五時過ぎ末子を背にして散歩ながら迎ひに參りました。人は皆我が家をさして歸り行きます。鴉もねぐらを求めて何んとなく憐れな物淋しいカーカーの聲を發して歸つて行きますのに、なで我が子ばかりは歸つて來ませんかといふ様な少し心細い感に打たれながら夕日を浴びつゝ護國寺まで行きました。

門を入りますと近所の子供がトンボを釣るのと巡査が五六人群をして歸つて行くばかりであり

ました。行違ひになつたに違ひないと引き返して急ぎ歸つて來ましたらば案の定子供は私の家を出ましてから三十分程して歸宅しましたとの事。

けれど子供は宅に居ませんでした。已に食事して又近傍の原にトンボ釣に行きましたと下女のしらせに、急ぎ迎にやりまして連れ歸らしめて時間を違へし事を染み染み訓戒しました。そして親に心配させる不孝を詫びさせました。

かゝる企てのよきかあしきか判断して皆様におすゝめするのではありませんが、兎に角必ず歸り來ること。遊ぶ場所で悪友がなければ身心を鍛練する上に功用は慥かにある事と存じます。事實はすぐに現はれまして、晚餐の進む事、床に入りて熟睡すること。何となく生き生きしたる容子のある事は、たしかに紅塵を避けて幽邃な場所で清潔の空氣を呼吸し、運動をした賜物であらうと存じました。

度々かゝる手段を用ふる事はよくはありますまいが、親兄弟がついて、或はつかないで必ず歸

り來ることの確信の出來得る範圍に於てよき場所を擇び遠征をやらせる事は心身の鍛練に裨益ある事と存じますが如何で御座いませうか。

産時の思出

某 女 史

今年數へ年三歳になる男兒の産時を思ひ起して、此處に書きますのは、私の實驗を記しまして、世の産を恐れらるゝ人々の参考に資せんとする徴衷に外ならぬので御座います。私は五番目の子の生れますまで學校に出て居りました。此の兒が生れまして二三ヶ月経ちまして、學校を退きましたから、此の兒の生れます時は出校いたして居りました。忘れも致しません、一昨年暮迫りました十二月の十三日いつもの様に大きなお腹を被布と袴に包みまして、成るべく目立たない様にし、電車にのりまして、殆んど一里の道を參りました。學校は

東京の中心と目せられます日本橋の富豪の軒をな
らべた空気の汚ない場所御座います。

朝の三時間の授業は難なくすましまして、晝食を
生徒と共にいたして居りますと、妙にお腹が痛む
ので御座います、ハテナ、モ一油断はならないと
思ひつゝ、人様より二倍位のお辨當を頂きまして、
生徒に笑はれながら無事にすましまして、四時間
目の授業にかゝりますと、痛みが少しひどくなり
ました。ソコで授業の終りました時生徒に向つて
私は事に寄りますと、明日からしばらく休校す
るの止なき事となるかも知れませぬ、そうしま
すと外の先生が變りにいらして下さる事になり
ます、そゝなりまして、今迄通りよく熱心に
勉強して決して怠る様な事があつてはなりません
ぬ。とりわけ來春三月は皆さんの、八年間の在
校中の成績があらはれる最も大事な時で御座い
ますから、たとへ一時間でも無駄口してはなり
ません、と

よく言ひきかせて居る中もお腹の痛みはしだい
に増さる多分陣痛に違ひなからうと自覺いた

しました、ついでに公務を片づけてと、五時間
目に教授批評會がありましたから、出席いたしま
した、其中も二三度痛みが参りましたが、其れで
も平氣で、殘務をすまし、明日の教案は素より萬
一の準備も殘る方なく、同輩の退校しました後ま
でも何くれと、世話して最後午後五時頃、校門を
出まして、電車にのり、東明館前まで來ますと一
度キリツと痛みが起りました。電車の神樂坂下に
つきましたのは、彼此六時頃で御座いました。

いつも買ひます子供のお土産を調べて、宅に
歸つて見ますれば、主人は既に學校から歸つて居
られました、用事があつて更に亦出掛けらるゝ
とて晚餐の最中でありました。

今日の様子を話しまして書生をやりて、産婆を迎
へしめ、主人は珍客の來れりとして外出なさいま
した。下女と、二人のみで心細う御座いました
入湯しておかないと又久しく身體の自由を缺いて
心地がわるからうと存し其れから三町ばかりの湯
屋に行きまして身を清め、一時間ばかりして、宅
に歸りました。

産婆も来て居りますし、産室も産具も整ひました。孤燈の下で産婆と二人今か今かと待つて居りました。がどうした事が陣痛がいと弱くて、はかばかしよう生れそうにもありません、いつもの様でないと案じて居りますと主人が歸られました。一步を誤れば死去三途、實にや勇士の戦場に臨んだ決心でと昔から申しますが、それでも頭が暇なもので御座いますから、よい事ばかりは考へないで、若し萬一此儘に終らんかあとに残りました四人の兒がなど、思ひますと胸は一杯になつて参ります、陣痛は次第にはげしくなります。産婆も大抵十二時頃御誕生で御座いませうと申しました。十二時を樂みに堪えがたい苦痛を堪えて居りました。が中々生れそうにもありません、夜は深くとふけ行きて、寒さは身に泌むばかりの眞夜中に、車夫を起して、醫者を迎にやりました其のあとで、一しきり烈しき陣痛と共に玉の様な男子は勇ましく初陣の初聲を擧げました。一家大喜び今迄の慘憺たる光景はあとを絶ちました、俄かに春めきました。私の氣分もすがく

として参りました。

醫師の選擇につきて

母 親

子供を育てまするに、平素病氣にかゝらぬ工夫をして、常に健體を保たしめる事にはあらゆる力を注がなければなりません、それでもどうかしますと、病氣にかゝる事がありまして、子供専門醫はいつても間に合ふ様にしておかないと困る事が御座います。過ぎし年の事、只今五歳になります男兒が不圖した事から發熱して、つい近所のお醫者に診て頂きました。素人でさへわかる全く麻疹で御座いました、其の外の子供も皆かゝりましたが、此の兒ばかりは熱が大變高くて、咳もはげしく、コンコンの響が恐ろしく胸にこたへる様で、奥の間に就癖させましたのが、玄關に見舞に來らるゝ人の耳にすぐ聞えるので、皆様が眉をひそめられました。

或は實布丁利亞になりはすまいかと、私も痛く心配いたしました。二日三日も経ても、一向熱が下らないで、トートー五日目位に四十度以上の熱になりました。サー私もこゝなつては、ウカ／＼晝間でも學校などへ出て居られません。ぬ事とは思ひながら、學校の方を休みまして専念介抱いたしました。

醫者は一日に一回か二回は来て下さいましたが、餘り咳が下火にならぬので、なんで御座いますかかと聞きましたらば、實布丁利亞です、直ぐ血清療法をいたします。ついでには他のお子様も皆同様血清療法をいたしますと、いきまき荒き其の見脈に一時は驚きました。待てしはしとといろく胸を押して鎮め「しばらくお待ち下さいませんか主人も留守で御座いますし」と言ひも了らぬ中に「其れでは早く電話で御主人をお呼びなさい。」と急ぎ立てられて、私も一寸マゴツキました。何だか心の奥に不安の念が往來して仕方が御座りません、そこでやがて言葉を改め「失禮で御座いますが、しばらくお待ち願ひまして、以前から世話

になつて居りました小兒専門醫が御座いますからすぐ電話でもお迎ひいたしますから、ドーズお二人御相談の上治療を願ひます」と申しました、醫者も餘程せきこんだ御様子で早く御呼びなさいと中々言葉が荒々しい。それでも私の度胸は全くすはりしました。モ一少しもマゴツキません。今迄の様子によりてこの醫者を信任するの念は薄らぎました。そして悔みました。一寸迎へて御親切で手輕ですむ位を重寶で頼んだ自分の淺薄を。事此處に至りてはぐず／＼して居られません、早く敬遠主義でも取てよき専門醫の法療を乞はなければ病床に呻吟して居ります愛兒のいかげあらんと。それから醫者に向つて言葉も強く「恐れ入りますが先生しばらくお引取を願ひます、そして他の専門醫をお迎へしまして御診察が御座いましたらば便をお宅に差し上げますから、お待ちせする事のいと心苦しう御座りますから是非ドーズお引取をと殆んど無理に迫りました。醫者もトートこんまけしてソレデは歸宅して薬を調合しておきますと歸られました。

「マールヤット一段落を告げましたが、早速又小兒科専門醫をお迎へしなければならぬ。皆様かよいとお仰やる方の御診察を乞ひました。すぐ来て下さいませ、丁嚙に御診察下さいました。『ア、コレハ肺炎ですよ肺炎！、實布の利亞などの疑もありません。早く胸部をお冷しなさい氷でドン／＼冷さなければ今は左肺がわるいのですが右肺も扼されます。薬は以前の醫者もある事で御座いますから、私は従で、そしてそれを主任醫として相談の上調合しますから。一寸筆と巻紙との仰せに。すぐ以前の醫者に手紙を認められて、これを持參して薬を頂げよと、仰ありてお歸になりました。

「マールヤットと思ふ所へ主人も歸宅しまして其の顛末を話しそれから病人には残る方なく手當して主人に依託して、手紙を以て醫者の家に行きました。

「醫者の赤面するのを見るのが辛らさに、ドーズお薬をと瓶をおいて用達にと出て行きました。

「夕方醫者自らで薬を以てお見舞に來て下さいました。

した。

それより二三度見舞にと參りましたが何となく、無駄な様な感じで迎へました。それより一方専門醫に來て頂きまして、夜晝の別なく吸入をかけるやら、濕布をするやら殆んど寢食をわすれて、看護しました其しるしあらはれましたか、さしもの大病人も一週間計りの後追々快方に向ひました。今日では大變に丈夫になつて居ります。

◎同窓會の利用

(下田歌子)

私が同窓會について希望する處が御座います。それは同窓會を以て單に娛樂のみに供しない事で御座います。勿論久振りに知り合ひの人々が會合しまして、お互に理窟をいひ合ふ様な事計りでは、何の効能もありませぬ、ですから、出来るだけ愉快に、又楽しく一日を暮すのも必要であります。利用の仕様によつては面白い趣味のある會合が、同時に利益のある事はいくらもありませぬ、例へばもう既に一家の主婦となつて居らるゝ卒業生が、新に卒業した人々に對して、家庭を料理する上の苦心談を語るとか、或は母となつて居る方が、青兒の上に經驗談をするとか、又は御自身が兼ねて失敗談をするとか、又この機會を利用して母校の教師に種々の質問をするとか利用のしかたはいくらもあるだらうと考へます。

小兒消化不良症の話

醫學士 内海 靜 一

小兒の御腹の病氣で一番油斷し易い者は、急性消化不良症であるかと思ひます、未だ莫大したことはない、また賣薬位で濟ましておけ、なども泰然としたる内に、突然病狀が重くなつて來て、如何なる療法を施すとも救ふことの出來なくなる様な破目に陥ることは屢々ある病であります。實は此の病氣は季節から云ふと夏季に一番多いのであります、秋冬になつても全然根絶すると云ふことはない、此の夏季でも能く見るのであります。それです、秋今申上げても決して時節はづれではありません、只今申上げても決して時節はづれではありません、其の大畧の要點を、御話して世の母親たる方々の御注意を惹起したいのであります。

此病氣は一言に云はば、御腹の病氣であります、さう申せば、はしそれなら嘔吐下痢であるかと合點なさるゝであります、所が簡單な容體ではないのであります。勿論下痢が第一の徴候には相

違ないのであります、其の外種々の病狀が現はれて參りまして、時には腸膜炎などと間違ふ様な事もあり、時には小兒虎列刺と間違ふこともあるし、左に右色々の病狀があるのであります。

然らば甚麼性質の病氣であるか素人方で分る丈の容體を申し上げましょう。勿論此病氣にも輕重がありまして、一定した標準はないのであります、茲には先づ輕い方から御話致しましょう。

輕症のものは殊更多く御座りまして、即ち春夏秋冬何れの時季を問はず絶えず有るものであつて、重症のものは先づ孰れかと云ふと、殆んど夏季にのみあつて涼しくなると少ないのであります。從つて輕症のものも夏に多いには相違ないので、其故輕症のものを能く注意して居ることは必要であります。此の病氣の常として先づ便通の度數が殖ゑるのであります。普通哺乳兒では一日一二回便通があつて、便の性質も黄色い菜の花色であつて、甚い惡臭もなく左程硬くもなく、又左程柔くもないのであります。所が急に便通の度數が一

日三四回から多くなると十回十數回にもなるのであります。大便是黄色くなくて青みがかつて、其内に粟粒から米粒大の黄白色の粒々が澤山に混つて磨りまして、臭ひも厭な不快なる一種の鼻を突く様になりまして、粥の様に柔になつて参りま

す、激くなると水瀉様に出ることもあります。小兒の氣分も稍々優れなくなつてくる併し玩具などを弄ぶのは平素に變らなない。軽度の熱の出でることが多くて先づ三十七度五分から八度位の體温になり易う御座います。そうなつてくると機嫌が悪くなる。焦れてくる、能く啼く、玩具にも厭つてぼくなつて來て無暗と泣く、泣くから母親は小兒の啼泣に對する第一の武器である乳房を口に給ふ、畢竟、時間も不正確に只無暗と母乳を飲ませる。甚しきは種々の菓子類を與る、また甚しき可憐にも小兒の胃腸は益々掻き廻されて、病氣は益々重くなる一方であります。本病の本態として消化が悪くなるから食欲も減退する、小兒は餘り乳を要求しなくなる、平素なら普通は乳房に十

分乃至十五分間位吸著くと小兒自身から自然に乳房を離すものであります。此病氣になるとそう長くは吸はない又大抵夜間の睡眠も不完全になつて参りまして、屢々眠を醒ましては啼泣する、併し極輕度のもものでは安眠し得るのであります。睡眠の不完全になるのは腹痛の爲めでもあります。し、何處となく精神の不安となる爲めでもあります。ようし、熱の爲めでもあらうし、色々の原因で起すのであります、又能く氣の付く方なれば尿量の減少が氣付きます、一日の放尿の回数が減じて一日三四回にもなつて参りますことが多ふ御座います、併し輕いものには多大した影響はありませぬ。

以上申し上げました徴候があれば消化不良症ではあるまいかと想像し得るのであります。併し便通の回数の多い位では、普通大抵の母親方は莫大した事はなく心得られて、賣藥であるとか、其外色々の姑息療法に依られる方が少なくないのであります。是迄申し上げたのは、輕症の場合であります。是迄申し上げたのも、養生次第では随分重

くなるのでありますから、手遅れしない様に、成るべく早く醫師に依頼する外はないのであります。又假令重くはならないにしても、慢性になり易いのであります。慢性になると、全快の途には餘程の時日も費るし、又家庭内では、手當てが非常に六かしい、此の必要なる消化器が侵かされるなど、身體の榮養が不足になる、従つて瘡せてくる、甚しくなると所謂小兒瘦削症に陥る様になり、さうなつてくると、種々の方面から外敵が鋒尖を磨いて攻撃してくる、而かも斯の如き小兒は脆くも敗北するの外はないのです、小兒瘦削症のことは、何れ時機を換へて御話致しませう。此病氣に最も罹り易い時期は、哺乳兒で御座います、生長した後に罹るのは哺乳兒に比較するとずつと少ない、哺乳兒でも母乳でなくて人工榮養に依るものに多いのであります。然らば此の病氣は何麼して起るかと云ふことを御話し致しませう。そうすれば、云はば此病氣の豫防法は其等の原因に注意すれば佳い理由になるのであります。所が此の必要な此の困難なる問題は、尙ほ暗黒で御座い

まして一定の説はないのであります。然し色々の原因が綜合して居るのであらうと思はれます。母乳を飲ませる量が多過ぎるのは一原因であります。母す。一體小兒には哺乳期と云ふ期間がありまして生後二日目位から約八九ヶ月乃至一年一二月間位は只乳のみで養育するのであります。其の間小兒をば哺乳兒と申します。其の哺乳兒の飲量は日數又は月數によりて一定して居ります。又身體の發育と共に増量して行かなければなりません。又飲ませる間の時間も加減してやらねばなりません。然し飲量は左に右として間をおく時間を二時間半なり三時間なり規則正しく與ることが普通一般に行はれて居られない様に見受けられるのであります。殊に下等の社會であり加ふるに母親の教育の不完全なる場合に於ては、中々守り難い様であります例へば勞働する女、又は一定の時間内勤める婦人方では時間通りに與る事は出来難い。其れよりは寧ろ麵麩の要求に汲々として急しい。是れはまだしも、下層の社會でなくて中流以上の家庭であり乍ら育兒の思想に乏しい點からして守ら

れない方もありましよう。此病氣で熱があると殊更口が渴する、其外氣分も悪い爲めに能く啼く、此啼泣を以て乳を求めるのである空腹な爲めであるといふと心得て、泣く度毎に乳を給る事もありましようが是れは甚しい考へ違ふと云はねばなりませぬ。又乳も人乳であれば其の濃度に心配することはないが、牛乳又は練乳を給與へるときは、其生長の時期時期で濃度を變更せねばならぬ。然るに淡過ぎると榮養が不完全になるし濃過ぎると又消化器を害する様になります、故に其の濃度は小兒の榮養状態と生後日數等から割り出して一定してやらねばなりません。母乳では這度心配は一寸もないのであります。凡て胃の中には胃液として一定の消化液が、胃壁から分泌される、其の分泌液は今注ぎ込まれた牛乳を一生懸命に消化させる、消化したものは直ちに腸管の方へ運ばれるのであります。然るに無暗に乳を注ぎ込むと消化液は不足であるから、不十分に消化されたものが腸管に送られると腸の神経筋肉も持て餘して腸管の蠕動運動を盛に起して腹痛を起したり下痢を起したり

して本病を起します。要するに過食は悪いのであります。又食物の變質したものが悪ふ御座います、母乳又は乳母の乳は例へば酒精又は其外の有害の毒素を食ると之が乳中に含有せられて、小兒胃腸障礙の原因となることがあります。又牛乳も同様に牛を飼養する食料の爲めに變質して有害のものを含有することもあります。又牛乳は腐敗し易いものであります。牛乳の消毒が不完全であれば空氣中から數千萬の細菌が牛乳一瓶の中に這入りますから消毒しないで長く空氣に放置しますると間違ひなく腐敗致します。殊に暖い時候では一寸も油斷が出来ませぬ、其故近來は用心深い家庭では、一定の熱氣消毒を行ふて、寒冷な所に貯藏して之れを飲ます様に心掛けられる方が段々殖えて參りました様であります、之に反して牛乳を大鍋か何かで、煮沸させた所で、甚だ不完全極つた消毒法と云はねばなりません。何れ是等の事に就きては後日御話致しまする時期が有りましたよ。腐敗した牛乳は臭も味も變つて居ますし、又成分が分解して凝固しますが、腐敗の初期で

は未だ、其等の事が能く區別が付き難ふ御座いま

又乳牛中に一種の腸加答兒的の流行病が傳播し

て、多數の仔は之れに罹る事があります。那麽時

機には之れを飲む小兒は犯され易ふ御座ります。

之れは一種の微菌による流行病であります。其故

牛乳の性質の可否は大に注目を値するのでありま

す。又或大家の如きは此病氣は一種の傳染病であると

申される様になりまして、つまり一種の微菌が原

因をするのであると云ふ説であります。此の傳染

病と云ふ説は有力であります。次に重症消化不良症

に於ては、輕症の時の徴候以外に種々と外の症狀

むだ後白色の凝固した、恰好豆腐を碎いた様な小
片と粘液の混つたものを吐き出す様になると、其
れは餘程危険な徴候であります。併し素人方では
一二次の嘔吐があつたとて之れには一向に平氣で
居られる方が多い様に見受けられます。嘔吐が何
故危険の驗であるかと云ふに第一食物を胃が受け
付けなくなるのでありますから、榮養物を口から
與へる事が出来ない、只管衰弱瘦肉を待つの外は
ない。つまり手が付けられなくなるのでありま
す。又此病氣では嘔吐が初まる頃には既う餘程外
に一般の病勢が重くなつて参りました。中毒症狀
も劇烈になつて居るのであります。嘔吐が劇しく
なると乳を吸ふ度毎に吐く様になります。そうな
ると口から一切食物を給與する事が出来なくなりま
す。従つて口から投薬することも出来なくなる。
其故私共の方では嘔吐を一番に恐れて居りま
す。又嘔吐のある患兒は既う助からぬ者が多う
御座います。一言添へておきますが、茲に申しま
する嘔吐は消化不良症のときであります。其
外に嘔吐のある病氣は澤山ありますから、嘔吐

があれば此の病氣であるとき考違へられては困るの
 であり、又時々腹が鳴るし、腹に手を觸れる
 と腹痛のある爲めに甚く啼くのが普通であります。
 又随分劇しい熱が起る、三十九度から四十
 度にもなる甚しきは四十一度になつた事もありま
 した。患兒は随分苦悶する呼吸使ひは忙しくな
 る。體重は甚しく減少して、日に日に瘦せる。顔
 色は甚しく憔悴して眼に光りなく朦朧として、口
 唇から舌はから／＼に乾燥する。又時々手足に瘡
 癬が起つて、容貌は惘然として來て、玩具を戲弄
 そうともせず。如何なる音を聞いても知らない状
 態である。小便の回数も餘程減つて來て、一日二
 三回から、甚しくなると一回位に止まることも
 ある。渴は随分劇しいから、斯ふなつて來ても、
 茶なり、湯なり、能く飲みます。乳でも能く飲み
 ます。これは食欲があつて飲むのではなくて、全
 く渴の爲めであります。然るに、それは能く素人
 方に間違へられて、母親は、これを乳の不足と心
 得て、幾度でも乳を與へる、益々胃腸を傷めるの
 であります、此の間違ひは能くありまして、患兒

の容態の輕からざることを話すと、母親は、能く
 それでも、乳は如何程でも飲むと云つてなかく
 信じられない方もあります。
 斯く病勢が進むて來ては、十中八九迄は助かりま
 せぬ。如何に充分の手當を施しても、大抵の場合
 助かり難う御座います。其時に及んで、手遅れで
 あると、後悔しても、もう追つ付かない。大抵醫
 師の診察を乞はれるときに、病氣は餘程進むて居
 るときが多う御座います。これ一つには、病氣が
 急性であつて、進行の早いものと、一つには、小兒
 の嘔吐下痢位の事は、豈夫と輕視されて、賣藥な
 らで濟まざうとなさるからであります。其れが
 第一の危険を招く原因となるのであります。普通
 よりも大便が軟かくて回数が多い頃には、一日も
 早く醫師に頼まれたならば、大抵は、適當の療法
 の下には、癒るものであります。併し療法を一步
 誤ると治癒は豫期し難う御座います。進むて、體
 温は高くなり、嘔吐もあり、容貌も朦朧として居
 るときには、餘程嚴重の療法でも最う助かり難い
 のであります。

此の病氣の手當は、家庭の多大な注意と、醫藥とが相俟つて、始めて效を奏するのであつて、醫師にのみ頼り、醫藥に重きを置かれ過ぎて、藥丈けで治るものと考へられては、間違ひであります、これは一般の療法に通じて、同一であります、醫藥も成程必要には違ひありませんが、同時に家庭の方は、食物の事、室の事、空氣の流通の事、光線の事、凡て萬般の事皆醫の命に従はれて、始めて藥の効力が顯はれるのであります。宜加減の姑息療法に依らるゝことなく、直に醫に頼まれて、重患に陥らない様に心掛けねばなりません、一般に世間では、醫藥にのみ重きをおかれる結果、藥丈けは、醫の命令通りに與へられるが、食餌の方は、輕視され易い傾がありまして、醫の定めたる量よりも多量に與へられる様に見受けまゝ。殊に消化器の病氣では、過食は大禁物でありますから、成るべく少量に、與へるのであります、所が頑是なき小兒の方では、甚く強請る、煩さく啼く、斯うなつてくると、傍で看護される方は、人情に絆されて、辛抱し切なくなると云ふ風になつて、

不知規定を破りたくありません。是が病氣に取つては、甚だ宜しくない。醫の方でも、其結果を視るべき筈なのに、一向に快くならないと思ふ、醫に取つては、大變な迷惑であります。又此の病の癒り掛かつた頃は、太く空腹に感ずるものでありますから、健康の時よりも、一層に食欲が増す、此時には、兎角醫の規定を破りたくないのであります、折角治つたものを癒へす事のない様にしたいものです。

其外治療上に就いての御注意はありますが、兎に角醫の命に違ふて居られる事が、治療法の第一方針であります。

雜報

●色彩研究に關する講習會 本會研究部は去月十日より文學士菅原敏造氏を聘して色彩に關する講演を開きたり。講習員約七十人四回の講演にて去月末に結了せり。

●南葵文庫兒童講話會 去月二十日午後一時より
 徳川侯爵邸の同所にて兒童講話會あり、小笠原海
 軍大佐の海戦講話あり高島平三郎坪井正五郎氏の
 演説ありて盛會なりしと云ふ。尙同會にては階上
 に數百點の玩具を陳列して參考に供したりと云ふ
 左に記するは其陳列品及其分類法なり。

第一類 只持て遊ぶ玩具

こけし這子 辨太郎人形 人形 笛ダルマ ダルマ柄
 わしやぶり 犬 デム人形

第二類 動くのを見て遊ぶ玩具

風車 バルトく鳥 噴算仔花 吹出し 螺旋動物頭
 籠鳥 馬上軍人 あやつり人形 犬 プランコ
 あやつり馬上軍人 虎 人形 競馬
 競馬獨樂 飛だりはねたり 玉乘人形 起上こぼし
 軍人ダルマ 横振人形 樂隊 鷄の蹴合 すぼんば獅子
 活動畫 傘の踊 與次郎兵衛 角力取 活動鳥
 高輪人形 辨慶人形 兎の餅搗 活動人形 熊の活動
 猫と鼠 米搗機 米搗人形 米搗臼 空中飛行船
 自轉車 鳩呼び センマイ鳩 センマイ蝶 輪馬
 棒押一輪車 球雞 馬 馬上人形 張子人形
 獅子 獅子車 仲縮籠 鳥 虫

第三類 鳴らして遊ぶ玩具

太鼓	ガリ	デン	玲瓏鼓	ガラ
松風	蛭	神樂鈴	子寶鈴	ゴム玉軍配
鳩笛	鶯笛	グアイオリン	月琴	ラツパ
人形	鳥類	白鳥	犬	豚
鼠	牛	虎	兎	蛇
馬	羊	猿	鹿	狸
猫	象	獅子	駱駝	熊
船	動物	金魚	龜	馬車
天幕	ガラ	首人形	姉サマ人形	
楊弓	ランドセル	軍刀	鎗	木刀
面	鬘	牛鬼	獅子頭	首馬
馬	春駒	牛兜	鬼の棒	鳥
貯金箱	懷中時計	勳章	銀行遊び	馬車
電車	自動車	魚釣り	郵便玩具	學校遊び
女禮式	ままこと	コーロース	水活字	葡萄
望遠鏡	かつら人形	裁縫道具	化粧	屏風
椅子	巾着	土鞋	ブランコ人形	測景機
軍人人形	城門	白	木工具	手桶
水瓶	白山	輪車	神輿	土藏
宮	家	家根船	船	堅魚船

第五類 眞似事して遊ぶ玩具

軍艦 海戦遊び 馬車 郵便車 龍車
牛車 荷車 踊らせ人形 影繪

第六類 上手になるを樂む玩具

扇 獨樂 輪鼓 具農 玉受け
環投げ 竹反し お手玉 鞠 蛙遊び
玉遊び 風船 輪 軍人乗馬射的 飛でこい
飾羽子 衝羽子

第七類 工夫の遊びの玩具

遊戯玉 繪合せ 積木 智恵の板 紙折人形
智恵の友はしき 數揃へ 智恵くらべ 智恵の木

第八類 不思議な事を樂む玩具

七福神 へび 活動寫真 折返し 智恵鏡
活動玩具 蛇、蛭 開花眼鏡 隻眼鏡 反射眼鏡函
ファイルドスコープ 五色眼鏡 幻花鏡

第九類 勝負の玩具

むさし 海戦將棋 角力獨樂

●新年號に就て、本誌新年號は印刷の都合上多分
●春中旬發行の事と相成る可く候に付發送從つ
て多少の遅延を免れず候へば左様御承知下され度
願上候

●正誤 前號に文學士桑田芳造氏の談話
の大意なりとて美人となる法云々の一項
を掲げしが右は同氏の談話にはあらざる
由同氏より申越あり。通信社の誤報なる
こと明かなれば茲に右一項を抹殺す。

●本會配布玩具に就て 本月份
の本會配布玩具は正月用のも
のを選択致し度存候ため原稿
の切に間に合ひ申さず從つて
本號に其説明を掲載致さず候
に付左様御承知下され度候



お伽訓話

腰折れ雀

今はむかし丁度此頃の様な小春日のうらゝかに心地よく晴れ渡つたある日の事六十許りになるお婆さんが、お椽側で日なたぼっこをして居りました、そうすると、どこからか雀が一羽来て楽しそうにチュ〜と云ひながら餌をひろつて居りました、お婆あさんもうれしそうにこ〜くしてそれを見て居ましたがいつ迄しても飛んで行きそうにもしませんから、不思議だと思ひ乍ら見て居りますとすぐその上の木へ鳥が来て、カア〜云ひ乍ら雀を取らふとして居ります、雀はそうと知つて逃げやうと思ふのかしきりに羽をバタ〜させますが飛べないので、お婆さんは急いで降りて行つて見ますと、腰の骨が折れて居

ますので、

『おゝく、可愛そうにくも少しで鳥にたべられてしまふ處、あゝよかつた

よかつた』

と獨り言云ひ乍ら抱いて来て、懐へ入れて温めてやつたり、お米を碎ひてたべさせたりして可愛がつてく育てゝおりました。

雀もお婆さんの親切をうれしくありがたく思ふと見え、お婆さんの肩へ止まつては、チュくくとうたひ、ふところへもぐつてはおとなしく眠りなどして居ります内に、腰もだんくくよくなつて、少しづつは飛べるやうになつて來ました、お婆さんはうれしくてくたまらず、お詣りになど行く時は子供たちによくたのんで行きますので、子供たちもみんなではゆがり大事にして居りました。そうして居ります内に餘程高く遠くへと飛べるやうになれましたので、或日の事お婆さんは庭につれて行き、

『雀さんやもう大變からだも丈夫になつたやうだから、鳥に取られる事もない

でせうさあおうちへお歸りよ』

とよく云ひ聞かせてにがしてやりますと、雀はうれしさうに二三度あちこちの枝に止まつては、チュくくくとお禮を云つて、向ふのお山の方へいつてしまいました。お婆さんは毎日くかはゆがった雀が飛んで行くのを見て、

『お、よかつた長い間世話した甲斐があつて、あんなによく飛べるやうになりましたよ今にまた遊びに来るでせう』

と獨り喜んで居りました。

さてこれから廿日許りたつてから、お婆さんはいつものやうに椽側で、お子たちにお伽話をして聞かせて居ますと、雀が一羽しきりに鳴いて居ます、お婆さんはもしや此間の雀が、来たのではないかとうれしく思ひながら、よくく見ますと雀も頻りにお婆さんのそばへ来て、チュくくと云つて居ます、お婆さんは膝にのせて、

『お、よく忘れずに來ましたね、お、く腰の骨もすかり丈夫になつてよかつ

たくよく来たね』

ときもくうれしそうにお話をして居りました。

其内雀は、何が少さなものを一つ口から落して又あつちへ飛んで行つてしまひましたので、お婆さんは何かとひろつて見ますと瓢葦の種でした。

『雀が之を持つて来て呉れたのでせうから植えて見ませう』と云つて日當りのよい處へ植えて置きました。

それから皆で毎日く水をやつたり、土をかけたりに居ります内に、可愛らしい芽が出て來、それが日にくそだつて見事の瓢葦がたくさんくになりました。お婆さんや子供たちは大喜びして、あんまり立派だからと云つて御隣にもあげ、おちさんやお婆さんのおうちにかけてあげたりして、どんく取りますがいくくら取つてもくなくなりません、其内にも一番大きいのを七つ許り、干して瓢葦にしようと思つて軒につるして置きました。しばらく過ぎてからもうよい時分でせうと思つて口をあけやうとしますと、何やら大層おもいで變だ

んだと皆が云ひ乍ら口を切つて見ますと、まあ不思議／＼お米が一ばいはいつて居ました。お婆さんや子供たちは、

『お婆さん、どうしたのでせう、へうたんの中にお米がはいつてゐるなんてねえ』

とうれしそうに見て居ます、お婆さんは、

『さあ早く桶か何か持ていらつしやい、あけて見ませう』

と家中皆大よろこびして居りました。あと残つたのはどうかしらと、又皆おろして来て口を切つて見ますと、どれにも／＼一ばいに米がつまつて居ます、そうしていくらあけてもあけてもつきず、空になつたからと思つて次のをあけて居る内に、もう先のが一ばいになつて居るものですから、もう此お婆さんのおうちではお米は買はなくつてもよいやうに澤山になりました、お婆さんは、

『是はきつと此間の雀が、御恩返しに持つて来て呉れたのでせう』
と子供たちにも話して毎日喜んで暮して居りました。

そうしますと其お隣りにも一人のお婆さんが住んで居ましたが、此頃お隣りが急にお米が澤山あるのを見て、どうした事かとうらやましくなりましたので、或日杖をつきくお隣へ来ました、そして、

『お婆さんくお宅では此頃大變お米が澤山におうりになりましたが、どうなさいましたのです』

と聞きますので、おとなしいお婆さんは、

『之は此間雀がひさこの種を一つ落して行きましたので、それを植ゑましたらこんなにお米が取れましたのです』

と申しますと、

『おやくくどうして雀が落していつたでせうね、もつとくはしく御聞かせ下さいませんか』

としきりに頼みますので、おとなしいお婆さんは、少しもかくさず初めからの御話をしてあげました。よく深のお婆さんは其種を一つ下さいませんかと云ひ

ましたから、種はありませんがお米でよければいくらでも持つていらして下さ
い、と云ひましたが。

『お米など少し許りいたゞいても仕方がありません、それよりか私も腰の折れ
た雀をさがして見ます』

といつて歸つてしまひました。

それからと云ふもの、毎日／＼お庭を見て居ますが、腰の折れた雀など中々見
つかりません。或日の事朝早く起きて裏の方へ出て見ましたら、井戸端に澤山
の雀があつまつてしきりにお米の落ちたのを拾つて居ます、いくらよく氣をつ
けて見ましても皆丈夫にびん／＼して居ますので、お婆さんはどうかしてあの
雀の腰を折つてやりませうと獨り言云ひ乍ら小石を澤山拾て、一度にバラ／＼
ツとなげました。雀たちは今迄、折角おいしい御馳走をたべて居りました處へ
急に石が降つて來ましたので、みんな大びつくりしチュ／＼と鳴き乍ら、急い
で飛んで逃げましたが、可愛相に一羽の子雀は石をあてられ飛べなくなつて、

たゞ羽ばたき許りしながら親雀や、友達雀の飛んで行くのをうらやましそうに見て鳴いて居りました。お婆さんは大喜早速つかまへ、もつとく腰をよく折つて籠の中へ入れてしまひました。何と可愛相ではありませんか、雀はどんなに痛かつたでせうね。しかし、お婆さんはそんなことにはがまわず、

然も親切そうにお米を嚙んでやつたり薬をつけて遣つたりして世話をしましたので、雀の腰も漸くのことで、丈夫になりました。そこでお婆さんは雀に向つて、

『コレく雀や私はお前の腰の折れたのを援けて直して上げたのだよ今放して上げるから御禮にひようたんの種子を持つてお出でよ』と云ひながら、籠から出して放してやりました。二三日すると雀はひようたんの種子を一つ椽側に落して行きました。お婆さんは『是だく』と云ひながらニコくもので早速之を庭の隈に蒔いて置きますと、直きに芽が出て大きなひようたんが澤山なりまじた。此時の慾深お婆さんの悦びつたらありません。

『さあみんな早く桶をけやざるをもつ持て来てお呉れ、之これから口くちを切きらふ、成なるたけ大おほ

きなものを持もつてね』

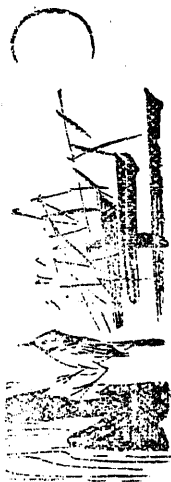
なぞと獨ひとり喜よろこんで皆みなを呼よび集あつめ、

『いゝかい桶をけをお出だし』

と云いひ乍なら一つ口くちを切きりました處ところが。さあ大變たいへんお米こめどころか、あぶ、蜂はち、むかで、
 とかけ、蛇へびなどのいやな虫むしが、うちやくと出でて來きて、目めをさす蜂はちがあれば首くびに
 まきつく蛇へびもあるしお婆おばさんのからだへ皆みなたかつて行ゆきますがお婆おばさんは痛いたい
 のも分わからず、只ただ々々お米こめがこぼれかゝるのかと思おもつて。

『まあく雀すずめさん少すこし待まつて下ください少すこしつゝあけて行ゆきますから』

と云いひ乍なら八やつとも皆みな口くちを切きりましたから大變たいへんとも大變たいへんともそれは大變たいへんな虫むしけ
 らで、逃にげまどふ子こたちをさすやらお婆おばさんのからだには一いばいたかつてしま
 いましたのでさすが慾よく深かのお婆おばさんも、びつくりしてにげやうとしましたがど
 うする事ことも出で來きずとうく虫むしにさし殺ころされてしまいました、



それだから、
欲^{よく}深^{ふか}く人のものなど、
ものうらやみするものではありません。

市内會員
諸君へ 謹告

年末御多忙の折柄甚だ恐縮
には候へども會計整理の都
合上本月中旬より市内會員
諸君の御宅へ集金人差出し
候に付御滞納會費御納附相
成度此段御願申上置候敬具

明治四十二年十二月

フレイベル會

幼稚園事業に**滿腔の興味**を持
てる商店ありや

幼稚園の恩物材料を**眞に研究**
せる商店ありや

幼稚園の教材をフレイベル氏撰定の
もの以外に**見出さんと焦慮**
せる商店ありや

幼稚園の恩物材料を**家庭に用**
みしめんと勤めつ、ある商
店ありや

恩物材料は高價いものてふ**格言**
を破らんと努力せる商店ありや

曰く、九段中坂上に
フレイベル館あり

振替口座一九六四〇



各女學校御用

美術造花材料一式

半製品及鑊打拔類

摘細工材料

絹縮緬及金銀毛筆
寫真臺紙柱掛

瓶細工材料

刺繡用絲及針

東京市本郷區眞砂町十五番地

卸小賣 百花堂 木村喜兵衛

●地方御注文ハ代金引替ニテ郵送ス營業目錄御報次第郵送ス

明治四十二年十二月一日印刷
編者 兼東京市小石川區竹早町七二
發行所 フレール會
和 田 直 持 印刷者 東京市本所區澤場町四番地 功